

上川アップデート・プロジェクト ～上川町の森と人をつなぐオリジナル酒杓の制作2023～

北海道旭川農業高等学校

佐々木宥紀、鎌田倅大、稲村琉斗

研究の背景・目的

【背景】

本校演習林（写真1）の所在地でもある上川町は、最盛期にとても活気のあった林業が、近年では著しく衰退していることを知りました。昨年度、日頃からお世話になっている上川町へ恩返しできないかと考えていたところ、上川町の森と人をつなぐ製品制作の依頼を上川町よりいただきました。



写真1 旭川農業高校の天幕演習林



図 オリジナル酒杓試作品

私たちは町産材のシラカンバを使用した製品開発をスタートし、上川町には上川大雪酒造があること、また雪をイメージして六角形の酒杓を試作することができました（図）。



研究の内容および成果

【研究の内容】

I 酒杓の耐水性試験

試作品の水漏れや変形試験を実施しました。試験方法はA、B、Cの酒杓を用意し、それぞれに水を入れて水漏れや変形などの変化が現れるのかを観察します（写真2）。



写真2 酒杓の耐水性試験

結果はAやBでは水漏れが発生、Cは最後まで水漏れが発生しませんでした。AやBの酒杓には、よく見ると隙間が確認できました。このことから、酒杓を丁寧に制作することで、酒杓としての機能を果たすことが証明されました。

しかし、試験終了後、木材が水分を吸収して乾いたことで、とくに底板が変形してしまいました。そこで、底板を下から貼り付ける構造ではなく、側板にはめ込む構造にし（写真3）、表面には自然由来のオイルを染み込ませました。そして同様の試験を実施した結果、水漏れはなく、その後の変形も確認できなかったことから耐水性試験をクリアすることができました。



写真3 酒杓の底板の改良

【目的】

○ 2023年度の活動について

昨年度までの活動では、酒杓のデザインが決定、そして試作品を製作することができました。その試作品の改良およびPR活動を大きな柱とし、今年度の活動の目的は以下のとおりとしました。

- 1 オリジナル酒杓の耐水性試験を行う。
- 2 オリジナル酒杓の形状を改良する。
- 3 酒杓を通じて上川町の森と人をつなぐためのPR活動のためのワークショップを開催する。

- 酒杓としての機能性を確認する。
- ワークショップを通して上川町およびシラカンバ材を用いたオリジナル酒杓をPRする。

II 酒杓の形状を改良する

①酒杓の大きさを改良する

約300mlの容量から、1合杓の容量と同様の180mlとして持ちやすさを優先しました（写真4）。

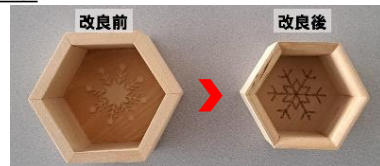


写真4 酒杓の大きさの改良

②側板の厚さを改良する

既存の厚さ10mmから、見た目、口当たりを班員たちで総合的に評価し、側板の厚さを8mmに改良することにしました。



写真5 酒杓の側板の厚さの改良

③飲み口を改良する

口にあたる部分が角ばっていて飲みづらいとの意見もあったため、飲み口の部分は内側に向けてアールを施すこととしました。



写真6 飲み口の改良

III ワークショップの開催

オリジナル酒杓ワークショップは、12月17日に上川町のPORTOで、1月16日には旭川西イオンで実施しました。様々な年齢層の方に体験していただき、上川町について知ってもらえる機会となり、所期の目的を達成することができました。



写真7 ワークショップの風景

今後の展開

昨年度からの課題であった耐水性や形状についての改良を加えることができました。また、ワークショップを開くことができ、上川町やオリジナル酒杓のPR活動ができました。かつて林業の町として栄えた上川町に、木製品開発を通して新たな風を吹き込めるよう、これからも活動を継続していきます。

完成

